

日本在宅 医学会 雑誌

Vol.3 No.1

The Japanese Academy of Home Care Physicians

●巻頭言

在宅におけるホスピスケアの真髓

佐藤 智

●第3回日本在宅医学会

特別講演 I ホスピスケアの真髓

柏木 哲夫

Yongyuth Pongsupap

特別講演 II タイにおける在宅医療（英文、和訳）

シンポジウム I 在宅ホスピスケア

中神百合子（司会）（シンポスト：井出 宏、高沢洋子、馬場崎淳子、吉村真由子）

シンポジウム II 在宅医療から世界がみえる

丸井 英二（司会）（シンポスト：本田 徹、色平哲郎、平原佐斗司）

一般演題 1 在宅医療に内視鏡は必要か？

平原佐斗司

2 口腔ケアは誤嚥性肺炎の予防に有効か？

原 龍馬

3 在宅における気管切開例の感染対策と問題点

レシャード・カレッド

4 吸引行為のは是非に関する最新の解釈

川島孝一郎

5 ターミナルケアにおけるリハビリテーションの意義

石垣 泰則

6 在宅終末期医療における閉塞性動脈硬化症（ASO）について

大河内明日香

7 在宅中心静脈栄養法（HPN）を施行した高齢者における在宅ホスピスケアの検討

今村 貴樹

8 沖縄・八重山地域における在宅死に関する調査

今村 昌幹,他

9 終末期のみの在宅緩和ケア

中神百合子

10 在宅ケアと入院緩和ケア施設との連携

加藤 恒夫,他

11 当院における在宅ホスピス移行の現状及び在宅ホスピスを断念した症例に関する検討

真田 洋美,他

●症例報告 長期非経口的栄養療法中に生じた銅欠乏性汎血球・減少2系統血球減少の4例

楠 淳一,他

投稿規定.....55

編集後記.....59

投稿承諾書.....56

日本在宅医学会

◆巻頭言

在宅における ホスピスケアの真髓

佐 藤 智 日本在宅医学会会長



人は必ず死を迎える。最近は災害、戦争などによる死が再び世界で注目されているが、いまなお病気による死亡が最も多い。その中で、日本では「3人に1人はがんで死する」といわれ、高齢者のがん死も多くなりつつある。

近年、末期がんの疼痛緩和を主とする「緩和ケア病棟」が急速に増加したのもこうした事情による。

がんによる末期には、疼痛緩和という重大な問題はあるが、がん患者が死に直面するとき、脳血流障害の末期とは異なり、最後まで周囲のご家族、医療者との言葉による交流が可能な場合が多い。「自分の人生は何であったのか」、最近しばしば「死んだ後自分はどうなるのか」というような人生にとって本質的な疑問を、在宅で関わる私たち医師に患者さんから投げかけられることがある。

私も若い頃にはあまりそのような質問を受けなかった。恐らく、入院患者さんは病院で忙しそうにしている若い受持医師にそのような疑問、心の痛みを訴えても返答に窮することを知っている。さりとて年配の回診してくる部長医師に聞く時間的余裕は現状の病院にはない。

このように、多くの入院患者さんは心の悩みを訴えることも、また、癒されることもなく生涯を閉じてゆかれたであろう。

在宅ケアでは病院とは異なり、患者・家族と医療者が時間をかけてゆっくりと交流することが可能である。その中から「私が死んだあと、私はどうなるのでしょうか」というような〈心の痛み、悩み〉を話し合うことができる。われわれ医療者はそれに正しい答えを言葉として伝えることはできなくても、話を真剣に聞き、その痛みを「共に担う（shareする）」ことはできる。

この患者の〈心の痛み〉は spiritual painである。それは人間が本来的に感ずる痛みの一つで、WHOが昨年提唱した「新しい健康の定義」に加えられる spiritual well-beingに深く関わる事柄である。

Spiritualという言葉は現在では適当な日本語訳がなく、片仮名でそのまま表現されているが、人間本来の心の問題であり、在宅ケアにおいては特に受け止めていかねばならない課題である。

今年の本学会で柏木哲夫先生に「ホスピスケアの真髓」と題してお話し頂いた中でも、在宅ケアにおけるホスピスケアの真髓に触れてくださった。

日本の医学界の流れが大きく「在宅」へ振れているときに「健康の定義」に新しく加えられようとしている spiritual well-beingに真剣に取り組めるのは正に在宅ケアである。そしてそれを学問的に追求していくのは「在宅医学」の使命である。